

ISSN 0919-4657

KONC

Bulletin of Kansai Organization for Nature Conservation

関西
自然保護機構
会誌

30巻2号(通算56号)

シンポジウム 淀川のイタセンパラの絶滅を防げ —生態を踏まえた対策を—



2008年12月
関西自然保護機構

表 紙 の 言 葉

イタセンパラ *Acheilognathus longipinnis* の雄の産卵前放精

写真・文 小川 力也

淀川水系のイタセンパラの産卵は、9月中ごろに始まり、11月初旬ごろまで続く。産卵期の雄は激しく闘争し合い、その結果、優位の雄が産卵床であるイシガイ科二枚貝類になわばりを形成する。雌は卵が成熟すると、産卵管が伸長し、なわばり雄に接近して番となる。そして、雌は産卵管を二枚貝の水管に差し込み、卵をえらの内部に送り込む。その直後、なわばり雄の放った精子が貝に吸い込まれ、受精する。しかし、このときばかりは、多くの雄（スニーカー）がなわばりに侵入して一斉に放精するため、それらの精子もほぼ同時に受精するものと考えられる。この写真は、なわばり雄が産卵前の雌の目前に多量の精液を落下させている瞬間を捉えたもので、本種によく見られる特徴的な行動である。貝内に吸い込まれた精子はしばらくの間受精能力を維持すると考えられることから、産卵前放精はスニーカーに対する防衛の意味をもつと考えられる。

関西自然保護機構（KONC：Kansai Organization for Nature Conservation）

KONCは自然環境保護にかかわる人たちや関心を持つ人たちを幅広く組織して、自然環境保全に関する各分野での研究を結集し、その研究の進歩と自然環境の保護・保全のために努力することをめざして、1978年に創立されました。

KONCはその活動の成果と、会員個々人の学識と経験の蓄積にもとづいて、近畿地方に於ける広い意味での自然保護の諸問題に対する有力なアドバイザー・ボティ（助言勧告機関）として、社会の要請にこたえることを企画しています。

現在、次のような活動をしています。

1. 基礎研究の実施
2. シンポジウム・セミナー・講演会などの開催
3. 現地見学会の開催
4. 研究助成金の交付
5. 会誌・連絡紙の発行
6. 自然保護に関する基礎資料の収集と配付
7. 自然保護および自然環境保全に関する提言と助言
8. 国内外の諸団体との連絡・協力

会の活動は、個人会員・維持会員の会費により、まかなわれています。